

熊本県開催<火の国ラウンド>



H27.8.12(Sun)

熊本県民交流館パレア

体育授業研究会熊本大会閉会後引き続き、お忙しい時期にもかかわらず、九州各県はもとより、広島県や愛媛県、遠くは茨城県からも参加いただき、**43名**の会員が集まり開催することができました。“火の国の熱い会”に、多くの方々がお集まりいただき心から感謝いたします。

1 トピックス 「第19回体育授業研究会・熊本大会での話題について」

まずは、第19回体育授業研究会 熊本大会の企画運営の中心者である熊本県の美咲野小学校の佐藤主幹教諭から本大会の概要と成果について話がありました。

(基調講演)

「確かな学力を保障する体育の授業づくり」

宮内 孝(南九州大学人間発達学部教授)

(シンポジウム)

「学習内容との関係を明確にしたボールゲームの教材づくり」

・シンポジスト

三輪 佳見(宮崎大学大学院教育学研究科教授)

垣内 幸太(大阪教育大学附属池田小学校教諭)

西村 正之(熊本大学教育学部附属小学校教諭)

(授業公開) 4本のボール運動(ゲーム)の授業を熊本県の先生が公開し、授業研究会を行いました。

以上のような内容でしたが、今回の熊本大会は、体育の授業づくりで最も重要とされる「教材」に焦点を当て、千葉大会、岩手大会から引き継いだ「確かな学力を保障する体育の授業づくり」の総括と位置付けて大会を企画・運営しました。特に、4本の授業公開後の研究協議は白熱し、教材の価値及び授業における思考・判断を核とした指導についてなど貴重な意見が多数出ました。

本大会としては、「確かな学力を保障する体育の授業づくり」に総仕上げにふさわしく、授業をとおして「学習内容を身に付ける教材づくり」及び「子どもたちに確かな学力を保障する体育の授業づくり」について協議できたことが成果として挙げられます。



2 「これからの体育・保健体育の授業について」

愛媛大学 日野准教授、茨城大学 吉野准教授、福岡教育大学 本多准教授らの「新学習指導要領を展望した体育科教育」について、貴重な話題を提供していただきました。

最後には、佐藤(教授)先生から、参加者の刺激となるまとめの後、会を閉じました。引き続き、15時過ぎから近くのピアホールで、夕暮れまで熱く語っていただきました。参加された皆様、ありがとうございました!



